

発 達 2 (209~216)

座長 木下芳子・二宮克美

- 209 道徳判断の発達(その1)
——判断の加法性に注目して——
慶応義塾大学 池谷 敬 恵
- 210 道徳判断の発達(その2)
——公平性に着眼して——
日本児童手当協会 難波 和 明
- 211 日本と台湾における道徳判断の比較文化的研究(2)
——台湾の中学生, 高校生, 大学生について——
慶応義塾大学 林 文 瑛
- 212 援助行動の内発的帰属に及ぼす外的報酬の効果
筑波大学 岡島 京 子
- 213 プロソージャルな道徳的判断の発達(I)・(II)
214 名古屋大学 二宮 克 美
名古屋大学 宗方 比佐子
- 215 向社会的行動の発達の研究(1)
兵庫教育大学 浅川 潔 司
- 216 多数決の理解を通して見た児童の社会的認知
埼玉大学 木下 芳 子

209 大平(金城短大)および荒木(兵庫教育大)から加法性の意味, 内容について質問があり, 詳しい説明がなされた。二宮(名大)から「結果の値が悪い方向にあるのに, どちらが良い子かと聞くのはSsをまどわすのではないか」という意見があり, 「どちらが悪い子かと聞くのと, そんなに差がないと思われる。もし差が出るなら, 教示や題材に工夫をこらすようにしたい」という回答がなされた。荒木の「望ましい判断とはどのようなものか。小学生と中・高校生の判断では質的に違いがあるのではないか」という質問に対し, 「そのような判断は, 一義的には決められない。判断構造そのものを明らかにしたいので, 発達のな問題はあまり考えていない」旨の発言があった。

210 大平から「2頭の馬の組合せは, 大小と同じ大きさの2組でよいではないか」という意見に対し, 「検討して不都合がなければ, そのようにしたい」との回答がなされた。岩佐(モロロジー研究所)および湯川(大阪市大)から, 公平性という道徳的問題を調べるのに馬を例話に使うことの適切性についての疑問ならびに馬の大小という情報が道徳的判断の課題たりうるかについての疑問がそれぞれ出された。それに対し, 「もしあなたが大きい(小さい)馬だったら」という教示をしており, そ

れぞれの立場に立った判断をしてもらいようにしてあるので不都合はないと思うが, 次回の実験からは例話の材料選びを考えたい。また, 今回の実験では馬の大小という限られた情報の中で何が言えるかを目的としており, その範囲での結果の報告であるとの回答がなされた。

211 大平の「日本と台湾における比較文化的研究とあるが, 日台間の比較がないのはなぜか」という疑問に対し, 昨年の発表では日台間の比較をしたが, 今回は台湾のデータだけを分析したという回答があった。

212 小倉(慶応大)から, 「援助行動の原因帰属判断の内容が行為者に伝達されるような状況での実験的研究は行わないのか」という質問に対し, 「本来ならそうすべきかもしれないが, ここではあくまで他者認知として取り扱った。他者の行動の認知傾向のみでなく自己の行動の認知傾向との相互作用をみる必要があり, 今後の課題としたい」との回答があった。

213~214 湯川, 八重柏・小野(兵庫教育大)よりカテゴリならびにレベルへの換算法について質問があり, それぞれ説明がなされた。湯川の「生活体験の有無・多少が各例話のレベルに影響を与えているのではないか」との意見に対し, 「そういう観点からデータを検討していないのではっきり断定はできないが, 今回のデータでは例話間のレベルのばらつきはさほど大きくなかった」との回答があった。

215 訂正: 発表論文集P47の右上2行を削除。二宮の「15回の観察は何日にわたっているのか, また観察場面は同一にしてあるのか」という質問に対し, 「約2週間間に15回の観察を行った。観察場面は統制していない」との回答があった。湯川から「援助行動が年齢の上がるにつれ低下している理由は, 観察場面の違いが影響しているのではないか」という指摘に対し, 「幼稚園や小学校では遊びの形態が質的に変わってきているので, それが向社会的行動の出現に強く影響していると考えられる」との回答がなされた。

216 訂正: 発表論文集P49右下 TABLE 4の5年B—④の場面12, 11を11, 10に訂正。二宮から, 8社会的慣習の場面が除かれている理由の説明が求められ, 「一応, 場面を作成し分析したが, 例話が不適切であったのでは」との回答があった。

以上, 質疑応答と討論の概要を記した。この他にも活発な討論がなされたことは言うまでもないが, 当日は会場が満席となり, 腰かけを運びこむほどの盛況であったことを付記しておく。(木下芳子・二宮克美)